

平成28年度 蔵書診断 実施報告

実施日 平成29年1月27日

診断分野 ①障害者福祉(分類 369.2)、②教育心理学(分類 371.4)、③障害児教育(分類 378)、
④精神医学(分類 493.7)、及びその関連分類

診断者 ①身体障害者更生相談所 職員 1名
②知的障害者更生相談所 職員 1名
③岐阜県発達障害者支援センター 職員 1名
④岐阜県精神保健福祉センター 職員 1名

診断方法 各分野の開架・書庫・雑誌を診断者が確認し、蔵書の専門度、気づいた点を蔵書診断票に記入する。

診断結果

①障害者福祉(369.2)

- ・精神障害関連の一般向けの図書が少ない。
- ・聴覚・言語障害関連図書が少ない。
- ・精神保健福祉士関連の図書は多い。

【その他の意見(入れるとよい本)】

- ・盲導犬関係の図書、イラスト付きの手話の手引書
- ・障がいのある方が書かれた自叙伝のようなもの(障がい者自身の声を聴くため)
- ・障がい者スポーツ関連の図書

【今後の対応】

- ・古い図書の改訂版、蔵書の少ない分野(精神障害関係の一般書、聴覚・言語障害関係)、入れるとよいとの助言のあった分野(盲導犬関係、イラスト手話、障がい者の自叙伝(分類は 289)、障害者スポーツ(分類は 780))の図書を選定して収集する。

②教育心理学(371.4 及び関連分類)

(371.4/教育心理学)

- ・蔵書は一般向けから専門向けまで偏りが無い。
- ・ひきこもり関係は注目度が高い分野。書庫の本を開架に出すべき。

(368.71/少年非行)

- ・蔵書は一般向けが多い。専門家向けの面接・アセスメント方法などの本が必要。

(376.11/幼児教育)

- ・蔵書は一般向けが多い。保育士が参考にできるリハビリ(P.T、O.T、S.T)的要素のある実践的な本があるとよい。

(143.3/発達心理学)

- ・蔵書は一般向けが多い。大学生が学べるような専門書を置くべき。別府哲(岐阜大学)の著書など。

【その他の意見】

- ・図書館の分類の用語が古い。

【今後の対応】

- ・少年非行、幼児教育、発達心理学に関して、学生や専門家向けの実践的な図書を選定し収集する。

③障害児教育(378)

- ・障害児教育一般(378)の蔵書は一般から専門まで偏りが無い。視覚障がい関係(378.1)は専門家向き、聴覚障がい関係(378.2)は一般向きの傾向がある。
- ・肢体不自由児関係の図書が少ない。
- ・吃音のみでなく”トゥレット”の本も必要。
- ・場面緘黙の本、成人期の就労支援、大学生支援などの本が少ない。

【その他の意見(入れると良い本)】

- ・概念的なものだけでなく、実践的な工夫(特別支援学校の実践、支援のアイデア、当事者の話など)の本やガイドブックなどをたくさんとり入れるとよい。
- ・デイケアプログラム(成人期・青年期における支援)関係では加藤進昌の本を入れてはどうか。

【今後の対応】

- ・蔵書の少ない分野(肢体不自由児、言語障がい、緘黙、成人・青年期の発達障がい者支援)の図書を選定して収集する。
- ・書庫の図書は、図書の劣化状態と開架の類書の所蔵状況、書架スペースを考慮し、開架に出すことを検討する。

④精神医学(493.7)

- ・493.7～493.72(精神病理学、病因・診断・治療など)の蔵書は、ドクター・有資格者向けが多い。

【その他の意見(入れるとよい本等)】

- ・産後うつ病は、需要は多いが図書も情報入手も難しい分野。専門書でもよいので入れてほしい。
- ・職業に関する雑誌(助産師、保健師、歯科衛生士等)を入れてはどうか。
- ・注目される分野:人格障害(パーソナリティ障害)、ネット・ゲーム依存、災害医療(DMAT、DPAT…etc.)の医療支援チームの活動記録など
- ・「精神衛生」の表記は、現在では「精神保健」に改めるべき。
- ・精神医療に対しては偏見もあるので、精神疾患(心の病気)と脳の病気は分けて置くほうが良い。(図書館の分類ではどちらも493.7の下位に隣接)
- ・人格障害と発達障害は別なので、一緒にしない方がよい(493.76)。
- ・”ひきこもり”のコーナーがあってもよい。

【今後の対応】

- ・産後うつの関係図書、「保健師ジャーナル」等の購入を検討する。
- ・注目すべき分野として指摘された関係図書は、蔵書は多数あるが分類が1箇所にとどまらない傾向がある。また、図書館の分類体系と専門家の分野体系が異なる部分もある。図書の分類の変更は難しいため、書架に蔵書検索を勧める表示や関連分野の案内、見出し板などの表示を検討する。